

平成 29 年サワラ春漁の漁況予報

平成 29 年 4 月 11 日
香川県水産試験場

1. 香川県におけるさわら流しさし網（春漁）による漁獲状況

漁獲量の推移を図 1 に示します。

平成 21 年から 24 年にかけて増加し、その後 27 年まではおおむね 400～600 トンの範囲で変動しましたが、28 年はサワラ 302.8 トン、サゴシ 3.0 トンの計 305.8 トンとなり、過去 5 年を下回りました。

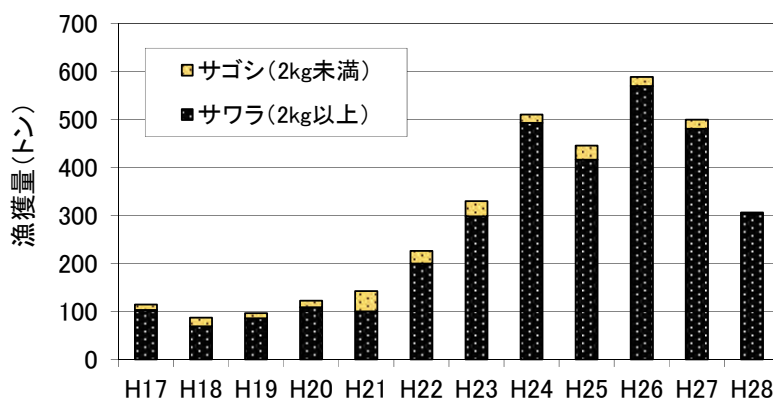


図 1 香川県のさわら流しさし網（春漁）による漁獲量の推移
漁獲成績報告、主要漁協漁獲量報告に基づき、香川県が集計。

2. 平成 28 年に稚魚はどの程度発生して育っているか（0 歳魚資源尾数の推定）

各年の瀬戸内海におけるサワラ 0 歳魚資源尾数（9 月 1 日時点）については、国立研究開発法人水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所が各府県のデータを収集解析して算定しています。現在、平成 27 年発生群まで示されていますが、28 年発生群については香川県で得たデータから推定することとします。

瀬戸内海区水産研究所が算定した尾数と相関が高い香川県のデータとして、播磨灘の大型定置網で漁獲されるサワラ 0 歳魚の漁獲量、播磨灘から 8 月に得たサワラ 0 歳魚サンプルの平均尾叉長を用い、それぞれ回帰直線により推定したところ、図 2 に示す結果となりました。両者でかなり異なる値となりましたが、両者を平均し、平成 28 年発生 0 歳魚資源尾数を 950 千尾程度としました。

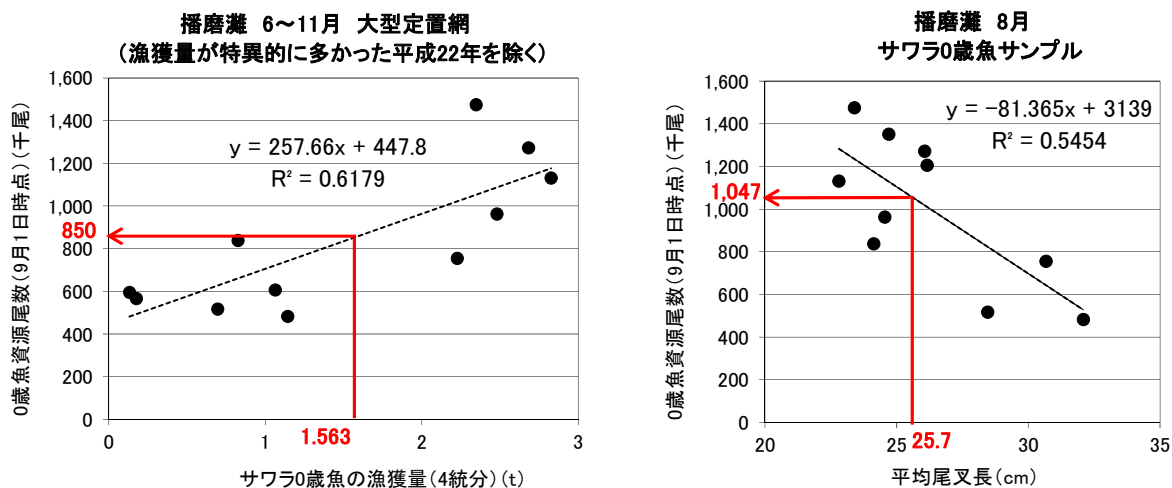


図 2 平成 28 年発生 0 歳魚資源尾数の推定

3. 平成 29 年春漁の漁況予測

0 歳魚資源尾数の推移と春漁における漁獲の関係を図 3 に示します。

漁獲魚の年齢組成は年によって異なりますが、2 歳、3 歳が主体であることがわかります。

0 歳魚資源尾数が多ければ、その年級群が翌年に 1 歳魚として、2 年後に 2 歳魚として、3 年後に 3 歳魚として、4 年後に 4 歳魚として多めに漁獲され、少なければその逆になる傾向があります。

この傾向から、平成 29 年春漁における漁獲尾数は、2 歳魚、3 歳魚はともに近年では少なめ、4 歳魚は比較的多めであると推定され、漁獲量は 400 トン前後（うちサゴシ 20 トン前後）になると予測しました。

なお、この予測は、例年に比べて漁場環境、サワラの回遊、操業状況等に大きな変化がないことを前提として行っています。

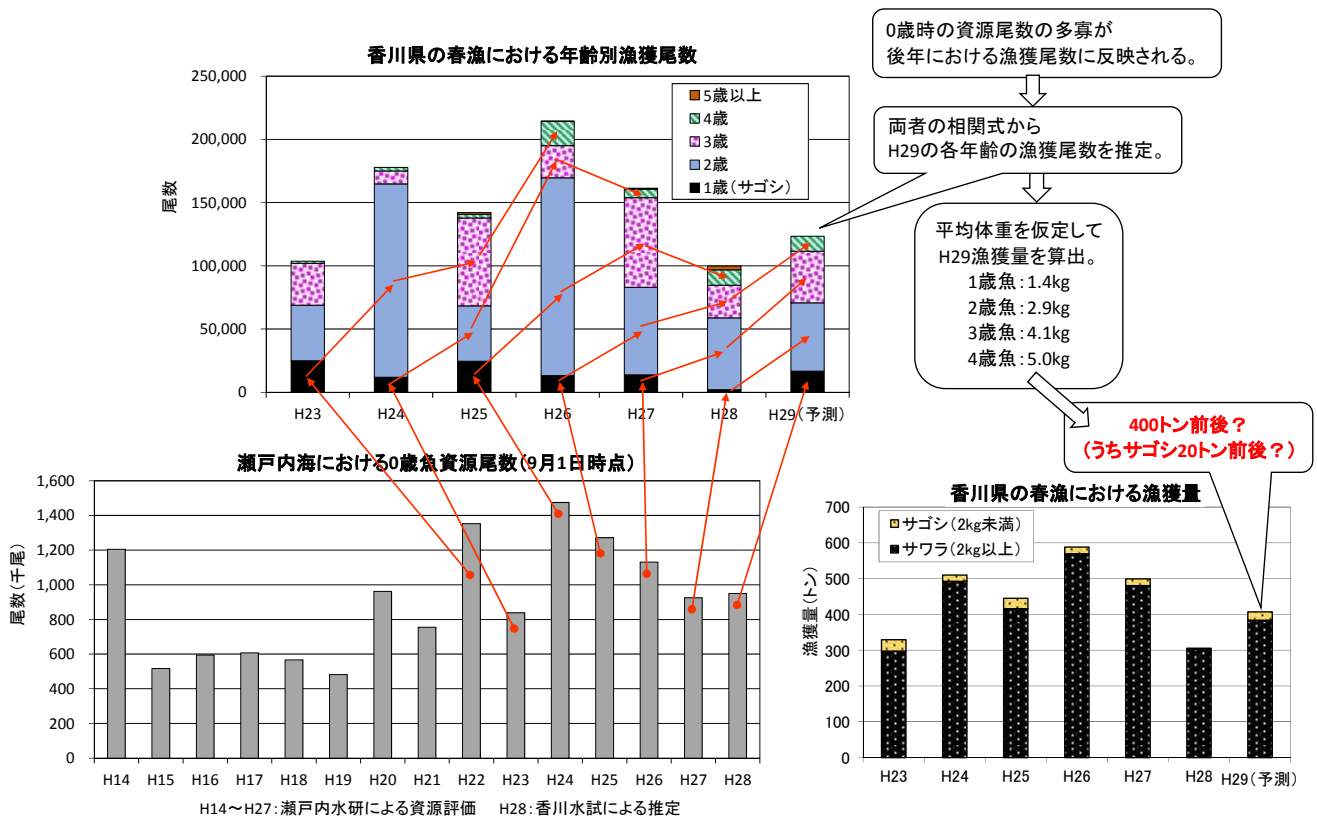


図 3 0 歳魚資源尾数の推移と春漁における漁獲の関係

瀬戸内海区水産研究所によるサワラ瀬戸内海系群の資源評価では、水準は低位、動向は増加とされており、今後 5 年間の予測ではほぼ横ばいの可能性が高い結果となっています。本格的な資源回復の指標として、高齢魚の増加、魚体の小型化と晩熟が提示されており、特に若齢魚に対して現状以上の漁獲規制を実施・継続し、資源量をより増加させることが必要であるとの見解が出されています。

現状の資源管理の取組みを緩めることなく、今後とも継続することが必要です。